

身近な園芸植物の毒性～その美しさの誘惑～

千葉大学名誉教授（薬学博士）

池 上 文 雄

はじめに

園芸植物、中でも花卉の美しさは、私たちに心の安らぎと幸せを与えてくれます。しかしながら、その美しさの一方で、毒性を持ったものも少なからずあります。そのような有毒な園芸植物は意外と身近に栽培されており、植物由来毒による事故が全国各地でたびたび発生しています。ニラと誤ってスイセンを食べて食中毒を起こした事故や、イソトマの手入れをしていた児童が急性結膜炎となった事故なども報道されています。そして近年では、園芸植物による食中毒発生の事例が目立つようになっているとの報告もあります。

有毒な園芸植物による事故の発生件数を抑制するためには、既に市販されている書籍に加えて、有毒な園芸植物に関する情報を適切に知ることが重要です。

「毒性の強さや毒性物質の名称が知りたい」、「中毒への対処法を知りたい」などといった要望が高い現状を踏まえ、本稿では比較的流通量が多いイソトマ、ジギタリス、チョウセンアサガオ、ランタナ、ロベリアなどの身近な園芸植物の毒性と対処法、取り扱い方などを表1（14ページ）にまとめてみました。また、有毒認知度が高いコルチカム、スイセン、スズラン、トリカブト、ヒガンバナなどに関する歴史的な背景も記してみました。花卉を愛でる参考になれば幸いです。

1. アネモネ～ギリシャ神話の美少年の名前

ギリシャ神話に、美少年アドニス死んだとき、その血から生えた植物として登場し、ヨーロッパ文化にいろいろな関わりを持っています。

この植物から出る汁液はプロトアネモンを含み、この成分は揮発性で局所刺激作用が強く、発赤、発泡、化膿など皮膚炎を起こします。取り扱いに注意し、触れた場合には水でよく洗い流します。

2. カロライナジャスミン～ジャスミンとは名ばかり

ジャスミンという名がついていますが、モクセイ科のジャスミンとは全く違うマチン科（ゲルセミウム科）の植物です。



カロライナジャスミン

全草、特に根茎にアルカロイドのゲルセミンなどの有毒成分を含み、かつて片頭痛、神経痛などに薬効があると用いられました。誤食すると、脈拍増加、呼吸麻痺、中枢神経刺激作用、血圧降下、心機能障害の症状がでます。勘違いしてジャスミンティーとして花に湯を注いだものを飲み、中毒した事例がありますが、一般的な栽培で、根に触れたり剪定を行うなどによって中毒を起こすことはありません。

マチン科やキョウチクトウ科に属する植物の多くは有毒植物であり、それらは強い痙攣や呼吸困難などの中毒を呈し、摂取量によっては死に至ることもあります。

3. クリスマスローズ～ヒポクラテスも使った便秘に効く根

ヘレボラスともいわれますが、ヘレボラスの学名はギリシャ語のヘレイン（殺す）、ボーラ（食物）の合成語であるといわれ、見かけによらず恐ろしい名前です。

全草、特に根に強心配糖体のヘレボリンが含まれ、ヨーロッパでは強心利尿、麻酔薬などとして使用された歴史がありますが、誤食すると下痢、嘔吐、けいれんやひきつけ、そして心臓麻痺を起して死に至ることもあります。取り扱いに注意し、飲食しなければ危険なことはありません。



クリスマスローズ

4. コルチカム～サフランと似て異なる

厳然と区別していたのは古代ギリシャ人で、普通のサフランのことをクロッカス・サフランといい、イヌサフランともいわれるコルチカムのことはエペメロンと呼んでいたそうです。エペメロンとは、ギリシャ語で1日限りという意味で、毒があることはすでに知られていました。中世になると痛風による激痛を特異的に鎮める効果が発見され、鎮痛薬として痛風に使用さ



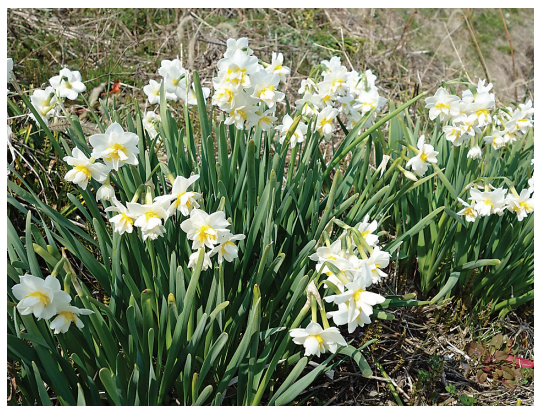
コルチカム

れるようになりました。

種子や鱗茎にアルカロイドのコルヒチンを含みます。毒性が強いため、生の球根を1個食べれば確実に死に至りますので、家庭では薬として使用してはいけません。

一方、コルヒチンは植物細胞の染色体数を倍加させるので、種なしスイカの作出などの農業用や園芸用の品種改良に用いられています。

5. スイセン～ギリシャ神話から越前スイセンの悲話



スイセン

ギリシャ神話の美少年ナルシスの化身として生まれ、自己愛や同性愛の代名詞ともなっている花はどこか冷たい美しさとひそやかな官能の香りを漂わせます。わが国の野生のスイセンは、平安時代に中国から移入したものと考えられており、平安の末期に越前の荒波が洗う浜辺に立つ岩の上から身を投げた娘の化身との伝説もあります。

全草、特に鱗茎にアルカロイドのリコリンを含み、吐剤として使用されています。約30%は炭水化物のグルコマンナンであるといわれ、根を擦ったものは腫れ物に効くといわれ、特に乳房の腫れによいとされます。大量に食べると死ぬことがあります、実際に中毒事故が起こったことはヨーロッパの中世を除いてほとんどありません。

最近、庭に植えてあったニラを刈り取った際、隣に植えられていたスイセンの葉が数枚混ざったまま夕食に食べて中毒を起こしたり、切り花の汁でアレルギーを起こして皮膚炎になった人がいます。

6. スズラン～君影草や谷間のユリと呼ばれる有毒植物

その姿が愛らしく、古くから詩や歌に詠まれ、また挿絵や刺繍などのモチーフに好まれ、世界中で愛されています。聖母マリアの花とされ、「幸福の再来」「純潔」等の花言葉があり、欧米では幸福のシンボル

として、花嫁が手に持つ習慣があります。

スズラン、ドイツスズランともに全草有毒、特に根茎や根に有毒成分の強心配糖体・コンバラトキシンなどが含まれ、中毒症状として流涎、悪心、眩暈、嘔吐、頭痛などを起こし、多量に摂取すると呼吸停止、心不全、いわゆる心臓麻痺状態に陥り、死に至ります。春の山菜採り時、新芽がギョウジャニンニクと似通っているため、間違っ採り、食べて中毒を起こすことがしばしばみられます。



ドイツスズラン

7. トリカブト～アイヌ民族の狩猟矢毒～毒を転じて薬となす

漢方では地下の塊根を**ぶし**附子と呼び、神経痛の薬や強心利尿薬などとして用います。狂言に「附子（ぶす）」という古くから演じられてきた有名な演目があり、また、「東海道四谷怪談」のお岩が飲まされた毒も附子とされていて、附子を口にすると顔面神経（運動性）が麻痺し、無表情になるといわれ、それから転じて「ブス」というようになったなど、日本においても古来より附子の毒性について広く知られています。

全草、特に塊根に猛毒アルカロイドのアコニチンを含み、誤食すれば嘔吐、下痢、呼吸困難、手足のしびれ、呼吸麻痺などが起こり死に至るとい激しい中毒を起こします。

花がついているときには見間違ふことはありませんが、芽生えの頃にはニンソウ、モミジガサ（シドケ）やゲンノショウコに似ているため、若葉を食べたり、塊根をみそ汁に入れて食べた中毒死事故も起きています。おかしいと思ったら根を掘ってみましょう。先の尖った塊根があればトリカブトの仲間であることに間違いありません。東北・北海道にかけてのトリカブトは最強の毒です。

中国原産のハナトリカブト（カラトリカブト）は花が大きくまとまっているので、栽培されて観賞用に切花として売られていますが、全草、特に塊根は猛毒です。

8. ヒガンバナ～球根を擦りおろし飢饉を乗り越えた

^{まんじゅしゃげ}曼珠沙華と仏教に関係がありそうな名もあり、中国が原産と考えられ、日本には有史以前より渡来していたと考えられる帰化植物で、この植物の仲間には有毒植物が多くあります。

全草、特に鱗茎にアルカロイドのリコリンを含み、生で食べれば呼吸麻痺なり心臓麻痺なりを起こして死に至ります。一方、多量のデンプンやグルコマンナンの炭水化物が含まれていますので、アルカロイド塩を水で流し出してしまえば、後に残るのは炭水化物だけなので食料に供することができます。

天明の大飢饉の際、水に晒して毒抜きし、飢饉の民の飢えをしのぐことができたということが人為的な分布の拡大につながったといわれ、南部藩の盛岡に彼岸花市が立ったほどでした。

春の彼岸に墓参りの帰りにノビルと間違えて採取し、夕食時にみそ汁に入れて食べ、食後5分後に吐き下しが起こり、一家全員が苦しんだという中毒事故がありました。



ヒガンバナ

おわりに

身近な園芸植物（花卉）の有毒性についてまとめました。すべてを網羅したわけではありませんが、身近に観賞する草花にも毒性があるものがあることを知り、日頃の取り扱いにも気を配ることの大事さを理解していただくことができたと思います。

本来、植物は身を守るため、また子孫維持のためにさまざまな物質を産生してきました。このような植物の生理を理解したうえで園芸植物を愛で、日々の生活の癒しや心の安らぎに活用して頂きたいと思います。私たち人類にとっては有毒な成分でも、植物にとっては有用な成分なのです。私たち人類は、自然の慈愛に育まれて生きていることを忘れてはならないと思います。

表 1. 身近な園芸植物の毒性

植物名・学名	科属名	特徴	有毒成分・毒性	中毒への対応等
アサガオ <i>Ipomoea nil</i>	ヒルガオ科 サツマイモ属	つる性の一年草	種子に樹脂配糖体のファルピチン。 誤食は腹痛、下痢	のどに指を入れ吐かせる。飲食しなければ危険なことではない
アセビ <i>Pieris japonica</i>	ツツジ科 アセビ属	わが国特産の常緑低木。馬酔木	茎葉に苦味物質（ジテルペン）のアセボトキシン、アセボチン。 誤食は腹痛、嘔吐、下痢、血圧低下。 牛馬では大量に食べると死に至る	手に触れても事故はない
アネモネ <i>Anemone coronaria</i>	キンポウゲ科 イチリンソウ属	観賞用として鉢植え、切り花、花壇に植栽の多年草。 別名ボタンイチゲ	汁液に刺激性精油成分のプロトアネモニン。 汁液に触れると発赤、水疱、化膿などの皮膚炎	取り扱いに注意し、触れた部分は水でよく洗う
アミガサユリ <i>Fritillaria tunbergii</i>	ユリ科 バイモ属	半つる性の多年草。 鱗茎の形から貝母（バイモ）の別名	鱗茎にアルカロイドのフリチリン、フリチラリン、ベルチシン。誤食は血圧低下、呼吸麻痺、中枢神経麻痺	飲食しなければ危険なことではない
アロエ類 <i>Aloe spp.</i>	ススキノキ（ツルボラン）科 アロエ属	常緑多肉植物。 キダチアロエ、アロエ・ベラを含む	葉の汁にシュウ酸カルシウムの針状結晶。 肌に触れると皮膚炎	ゴム手袋などで防護が必要
イソトマ <i>Laurentia axillaris</i>	キキョウ科 ラウレンティア属	多年草、園芸上は一年草。 別名ローレンティア、ブルースター	茎葉の乳液に有毒成分。 眼に入ると失明の恐れ、肌に触れるとかぶれ	ゴム手袋などで防護が必要。触った手を目もとに持っていないように注意
ウマノスズクサ <i>Aristolochia debilis</i>	ウマノスズクサ科 ウマノスズクサ属	つる性の多年草	全草に芳香族カルボン酸のアリストロキア酸。 誤食は腎機能障害、呼吸停止	飲食しなければ危険なことではない
エニシダ <i>Cytisus scoparius</i>	マメ科 エニシダ属	ヨーロッパ原産の常緑性低木	茎葉にアルカロイドのスパルテイン 誤食は知覚麻痺、よだれ、胃腸けいれん、吐き下し	飲食しなければ危険なことではない
オキナグサ <i>Pulsatilla cernua</i>	キンポウゲ科 オキナグサ属	多年草。 セイヨウオキナグサを含む	全草にプロトアネモニン。 汁液が肌に触れると水疱。 誤食は心臓毒、胃腸炎	触れた部分は水でよく洗う。飲食しなければ危険なことではない
オシロイバナ <i>Mirabilis jalapa</i>	オシロイバナ科 オシロイバナ属	南アメリカ原産の多年草または一年草	根や種子に窒素化合物のトリゴネリン。 誤食は嘔吐、腹痛、激しい下痢	飲食しなければ危険なことではない
オダマキ <i>Aquilegia flabellata</i>	キンポウゲ科 オダマキ属	多年草。ミヤマオダマキ、セイヨウオダマキを含む	全草にプロトアネモニン。 汁液が肌に触れると水疱。 誤食は心臓毒、胃腸炎	触れた部分は水でよく洗う。飲食しなければ危険なことではない
オトギリソウ <i>Hypericum erectum</i>	オトギリソウ科 オトギリソウ属	多年草。ヒペリカム。セイヨウオトギリソウを含む	葉に光作用性物質のヒペリシン。 汁液が肌に触れると皮膚炎	触れた部分は水でよく洗う

オモト <i>Rohdea japonica</i>	キジカクシ (スズラン) 科 オモト属	常緑の多年草。 万年青	全草、特に根茎に強心配糖体のロデ イン、ロデキシン。誤食は呼吸麻痺、 全身けいれんで死に至る	のどに指を入れ吐か せる。飲食しなけれ ば危険なことはない
カクレミノ <i>Dendropanax trifidus</i>	ウコギ科 カクレミノ属	常緑高木	樹液にフェノール誘導体のウルシ オール。汁液が肌に触れるとかぶれ	触れた部分は水で よく洗う
カルミア <i>Kalmia latifolia</i>	ツツジ科 カルミア属	常緑低木または小 高木。別名アメリ カシャクナゲ	葉にジテルペンのアンドロメドトキ シン。誤食は腹痛、嘔吐、下痢、神経麻痺	飲食しなければ危険 なことはない
カロライナ ジャスミン <i>Gelsemium sempervirens</i>	マチン (ゲルセミウム) 科 ゲルセミウム属	常緑つる性低木。 別名イエロージャ スミン	全草、特に根茎にアルカロイドのゲ ルセミン。誤食は脈拍増加、呼吸麻痺、血圧降 下、心機能障害、重症の場合は死亡	手に触れても事故は ない。モクセイ科の ジャスミンとは全く 違う植物
キキョウ <i>Platycodon grandiflorus</i>	キキョウ科 キキョウ属	1 属 1 種の多年草	全草、特に根にサポニンのプラティ コジン。簡単な調理での飲食は嘔吐、胃腸の ただれ、下痢	茹でる、水にさらす など、えぐ味を除い て調理すれば心配な い
キツネノカミソリ <i>Lycoris sanguinea</i>	ヒガンバナ科 ヒガンバナ属	球根性多年草	鱗茎にアルカロイドのリコリン。 誤食は嘔吐、腹痛、下痢	飲食しなければ危険 なことはない
キョウチクトウ <i>Nerium indicum</i>	キョウチクトウ科 キョウチクトウ属	常緑小高木	枝葉に強心配糖体のオレアンドリ ン、アディネリン。誤食は嘔吐、心臓麻痺	飲食しなければ危険 なことはない
クリスマスローズ <i>Helleborus niger</i>	キンポウゲ科 クリスマスローズ属	観賞用の多年草	全草、特に根に強心配糖体のヘレボ リン。誤食は心臓麻痺	飲食しなければ危険 なことはない
クレマチス類 <i>Clematis</i> spp.	キンポウゲ科 センニンソウ属	観賞用の多年草。 テッセン、カザグル マ、センニンソウ、 クサボタン、ハンシ ョウヅルを含む	全草にプロトアネモニン。 汁液が肌に触れると水疱。 誤食は胃腸炎、血便	取り扱いに注意し、 触れた部分は水でよ く洗う。飲食しなけ れば危険なことはい ない
ゲッケイジュ <i>Laurus nobilis</i>	クスノキ科 ゲッケイジュ属	南ヨーロッパ原産 の常緑高木	葉に精油のシネオール。大量に触れ ると皮膚炎	触れた部分は水でよ く洗う
ケマンソウ <i>Dicentra spectabilis</i>	ケシ (エンゴサク) 科 コマクサ属	観賞用の多年草。 別名タイツリソウ	全草にアルカロイドのプロトピン。 誤食は嘔吐、下痢、頻脈、呼吸不 全、心臓麻痺	飲食しなければ危険 なことはない
コバイケイソウ <i>Veratrum stamineum</i>	ユリ科 シュロソウ属	山地草本の多年草	全草にアルカロイドのプロトベラト リン。誤食は嘔吐、手足のしびれ、 めまい、脱力感、全身けいれん、意 識不明	若芽をウルイ（ギボ ウシ）との間違い。 飲食しなければ危険 なことはない

コルチカム <i>Colchicum autumnale</i>	イヌサフラン (ユリ) 科 イヌサフラン属	ヨーロッパ中南部から北アフリカ原産の多年草。別名イヌサフラン	種子や鱗茎にアルカロイドのコルヒチン。 誤食は下痢、嘔吐、皮膚の知覚麻痺、呼吸困難、重症の場合は死亡	葉をギョウジャニンニク、鱗茎をジャガイモ、タマネギとの間違い。花柱をアヤメ科のサフランとの間違い。飲食しなければ危険なことはない
ジギタリス <i>Digitalis purpurea</i>	オオバコ (ゴマノハグサ) 科 ジギタリス属	ヨーロッパ原産の二年草、ときに多年草。別名キツネノテブクロ	全草に強心配糖体のジギトキシン、ジゴキシン。誤食は動悸、嘔吐、めまい、重症の場合は死亡	ムラサキ科のコンフリーとの間違い。民間的に薬用とすることも禁忌。飲食しなければ危険なことはない
シクラメン <i>Cyclamen persicum</i>	サクラソウ科 シクラメン属	多年草。別名カガリビバナ、ブタノマンジュウ	根茎にサポニン配糖体のシクラミン 誤食は嘔吐、胃腸障害	飲食しなければ危険なことはない
シャクナゲ <i>Rhododendron spp.</i>	ツツジ科 ツツジ属	常緑低木、ときに高木。数多くの外国産のシャクナゲが導入	葉や花にジテルペンのアンドロメドトキシン。 誤食は吐き気、下痢、呼吸困難	飲食しなければ危険なことはない
シュウカイドウ <i>Begonia grandis</i>	シュウカイドウ科 シュウカイドウ属	球根性多年草。 別名ヨウラクソウ	全草にサポニン様物質のベゴニン。 誤食は胃腸障害、下痢、けいれん	飲食しなければ危険なことはない
スイセン <i>Narcissus spp.</i>	ヒガンバナ科 スイセン属	地中海沿岸地方原産の多年草。 現在は園芸種がほとんど	全草、特に鱗茎にアルカロイドのリコリン、シュウ酸カルシウム。 誤食は嘔吐、下痢、頭痛。汁液に触れると接触性皮膚炎	ニラ、アサツキとの間違い。飲食しなければ危険なことはない。触れた部分は水でよく洗う
スズラン <i>Convallaria majalis</i>	キジカクシ (スズラン) 科 スズラン属	多年草。園芸種はほとんどがドイツスズラン	全草、特に根に強心配糖体のコンバラトキシン。誤食は嘔吐、めまい、頭痛、多量に摂取すると呼吸停止、心不全で死亡	新芽をギョウジャニンニクとの間違い。飲食しなければ危険なことはない
ソテツ <i>Cycas revoluta</i>	ソテツ科 ソテツ属	雌雄異株の常緑低木	全株、特に種子に神経毒のサイカシン。誤食は激しい食中毒、重症の場合は死亡	種子のデンプンは正しい加工処理をして食べれば危険なことはない
タマスダレ <i>Zephyranthes candida</i>	ヒガンバナ科 タマスダレ属	多年草。別名レインリリー、ゼフィランサス	全草、特に鱗茎にアルカロイドのリコリン。誤食は嘔吐、けいれん	葉をノビルとの間違い。飲食しなければ危険なことはない
チョウセンアサガオ <i>Datura spp.</i>	ナス科 チョウセンアサガオ属	一年草または多年草。別名ダチュラ。ヨウシュチョウセンアサガオ、近縁種キダチチョウセンアサガオ(エンゼルトランペット)を含む	全草にアルカロイドのスコポラミン、アトロピン、ヒョスチアミン。誤食は散瞳、よだれ、狂乱状態。目に入っても危険	根をゴボウとの間違い、種子をゴマとの間違い。飲食または目に入れば危険なことはない
ツリフネソウ <i>Impatiens spp.</i>	ツリフネソウ科 ツリフネソウ属	一年草または多年草。別名インパチエンス。キツリフネ、ホウセンカを含む	全草に苦味質のパリナル酸。 誤食は嘔吐、下痢、頭痛	飲食しなければ危険なことはない

トウワタ <i>Asclepias curassavica</i>	キョウチクトウ (ガガイモ) 科 トウワタ属	南米原産、主に温室 で栽培の多年草、と きに一年草。フウセ ントウワタを含む	茎葉の白い乳液にビンセトキシン、 全株にアスクレピアジン。誤食はジ ギタリス様の強心、催吐	飲食しなければ危険 なことはない
ナンテン <i>Nandina domestica</i>	メギ科 ナンテン属	中国原産、1属1 種の常緑低木	果実にアルカロイドのドメスチン、 全株にナンジニン。誤食は神経麻 痺、呼吸麻痺	赤実、白実には差はな い。飲食しなければ 危険なことはない
ニチニチソウ <i>Catharanthus roseus</i>	キョウチクトウ科 ニチニチソウ属	熱帯では低木、温 帯では一年草	全草にアルカロイドのビンクリスチ ン、ビンブラスチン。誤食は嘔吐、 下痢、けいれん、心機能障害	飲食しなければ危険 なことはない
ノウゼンカズラ <i>Campsis grandiflora</i>	ノウゼンカズラ科 ノウゼンカズラ属	つる性の落葉性低 木。アメリカノウ ゼンカズラを含む	全株にアレルギー性物質のラパコー ル。汁液が肌に触れるとかぶれなど の皮膚炎	取り扱いに注意し、 触れた部分は水でよ く洗う
ハナトリカブト <i>Aconitum carmichaeli</i>	キンポウゲ科 トリカブト属	観賞用の多年草。 花が大きくまとま り、切り花として 流通。トリカブト 属植物を含む	全草、特に塊根にアルカロイドのメ サコニチン。他のトリカブト類はア コニチンが主成分。誤食は嘔吐、下 痢、よだれ、手足のしびれ、呼吸麻 痺、重症の場合は死亡	新芽をニリンソウ、 モミジガサ、ゲンノ ショウコとの間違い。 トリカブトは日本三 大有毒植物の一つ
ハナミズキ <i>Cornus florida</i>	ミズキ科 ミズキ属	落葉低木～高木。 別名アメリカヤマ ボウシ	葉の表面の毛に刺激性物質。 肌に触れると皮膚炎	触れた部分は水でよ く洗う
ハマユウ <i>Crinum asiaticum</i>	ヒガンバナ科 ハマオモト属	常緑多年草。 別名ハマオモト	全草、特に鱗茎にアルカロイドのリ コリン。誤食は嘔吐、下痢	飲食しなければ危険 なことはない
パンジー <i>Viola x wittrockiana</i>	スミレ科 スミレ属	耐寒性多年草。別 名サンシキスミレ ビオラ、ニオイス ミレを含む	種子や根茎に神経毒のピオリン、ピ オラルチン。誤食は嘔吐、神経麻痺	花は食用となる。 種子や根茎を飲食し なければ危険なこと はない
ヒアシンス <i>Hyacinthus orientalis</i>	キジカクシ (ヒアシンス) 科 ヒアシンス属	球根性多年草。ヒ ヤシンスとも表記	鱗茎にシュウ酸カルシウムの針状結 晶。肌に触れると皮膚炎	触れた部分は水でよ く洗う
ヒエンソウ <i>Delphinium ajacis</i>	キンポウゲ科 デルフィニウム属	多年草、日本では一 年草。花の姿から飛 燕草、別名チドリソ ウ(千鳥草)。ヒエ ンソウ属 <i>Consolida</i> とも表記	全草にアルカロイドのデルフィ ニン、アジャシン。誤食は嘔吐、 下痢、重症の場合は死亡	飲食しなければ危険 なことはない
ヒガンバナ <i>Lycoris radiata</i>	ヒガンバナ科 ヒガンバナ属	球根性多年草。曼 珠沙華。秋の彼岸 に花茎を伸ばして 深紅花を開く	全草、特に鱗茎にアルカロイドの リコリン、ガラタミン。 誤食は嘔吐、下痢、よだれ、神経 麻痺、重症の場合は死亡	飲食しなければ危険 なことはない
フクジュソウ <i>Adonis vernalis</i>	キンポウゲ科 フクジュソウ属	多年草。福寿草。 別名ガンジツソウ (元日草)	全草、特に根茎や根に強心配糖体の シマリニン、アドニトキシン。誤食は 嘔吐、呼吸困難、心臓麻痺、重症の 場合は死亡	新芽をフキノトウ、 若葉をヨモギとの間 違い。飲食しなければ 危険なことはない

プリムラ <i>Primula</i> spp.	サクラソウ科 サクラソウ属	多年草。西洋サクラソウ。ポリアンサ、オブコニカ、マラコイデス種などを含む	茎葉に腺毛を有するものに有毒成分のプリミン。直接肌に触れるとかぶれ、治癒に半年もかかる	栽培管理、取り扱いには要注意。触れた部分は水でよく洗う
マルバルコウ <i>Ipomoea coccinea</i>	ヒルガオ科 サツマイモ属	北アメリカ原産のつる性一年草。マルバルコウソウとも表記	種子に樹脂配糖体のファルピチン。誤食は腹痛、下痢、嘔吐	飲食しなければ危険なことはない
ヨウシュヤマゴボウ <i>Phytolacca americana</i>	ヤマゴボウ科 ヤマゴボウ属	多年草。別名アメリカヤマゴボウ。ヤマゴボウを含む	全草にアルカロイド、サポニン、根に硝酸カリウム。種子の毒性が高い。誤食は嘔吐、下痢、重症の場合は死亡	夏、秋の結実期に幼児が口に入れる事故が多い。山ごぼうの味噌漬はキク科モリアザミの根
ランンキュラス <i>Ranunculus asiaticus</i>	キンポウゲ科 キンポウゲ属	多年草。別名ハナキンポウゲ。低温で発芽する園芸植物の代表	全草から出る汁液にアルカロイドのプロトアネモニン。肌に触れるとかぶれ	大量の取り扱いには要注意。触れた部分は水でよく洗う
ランタナ <i>Lantana camara</i>	クマツヅラ科 シチヘンゲ（ランタナ）属	熱帯アメリカ原産の常緑小低木。別名シチヘンゲ（七変化）	未熟果実に哺乳類に有毒のランタニン。誤食は腹痛、虚脱状態	幼児がいる家庭では要注意。飲食しなければ危険なことはない
ルピナス <i>Lupinus</i> spp.	マメ科 ルピナス（ハウチワマメ）属	一年草または多年草。別名ノボリフジ	種子にアルカロイドのスバルテイン、ルピニン。誤食は嘔吐、心臓麻痺	飲食しなければ危険なことはない
レンゲツツジ <i>Rhododendron japonicum</i>	ツツジ科 ツツジ属	落葉低木。別名ウマツツジ、ペコツツジ	全株にジテルペンのアセボトキシン、ロドジャポニン。誤食はけいれん、呼吸停止。花の蜜を吸うのも危険	飲食しなければ危険なことはない。自生地での開花期の養蜂は禁止
ロベリア <i>Lobelia erinus</i>	キキョウ科 ミゾカクシ属	一年草。別名ルリチョウソウ、ルリミゾカクシ。主にエリヌス種の園芸品種が流通	全草にアルカロイドのロベリン。誤食は呼吸麻痺、けいれん	サワギキョウ、アゼムシロ、園芸品種も含め同属植物は有毒。飲食しなければ危険なことはない